2017.4.1 GEWANDHAUS 龍ケ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

隠れた名曲・佳曲を集めて 第5回

プログラム

今日は毎回好評をいただいております「隠れた名曲・佳曲を集めて」の特集第5回をお送りします。「創作主題による32の変奏曲」はベートーヴェンが36歳の1806年に完成させた中期の名作で、わずか8小節からなる主題を31の変奏まで小節数を厳格に守りながら、シャコンヌ風に書かれた古典的な手法と巧みな変奏技法で、実に魅力的な、様々な音色を引き出しています。ポーランドの作曲家ヴィニァフスキは自身優れたヴァイオリニストでもあり、多くのヴァイオリン作品を残しましたが、ヴァイオリン協奏曲第2番は、スラヴ的な哀愁や詩情、ヴァイオリンの美質を生かした音色と、優れた技巧を駆使したロマン派のヴァイオリン協奏曲を代表する名曲のひとつです。ラヴェルの「スペイン狂詩曲」は、1895年に作曲されていた“ハバネラ”に他の3曲を加えて1908年に完成させた最初の管弦楽曲で、スペイン情緒を漂わせたリズムやエキゾチックな香りは実に巧妙で、“オーケストレーションの魔術師”ラヴェルならではの名曲です。モーツァルトが1787年に作曲した弦楽五重奏曲第4番は、有名な交響曲第40番や第25番と同じト短調で書かれた室内楽の傑作で、哀感に満ちた旋律は美しく、時に優雅に、時に力強く、その精緻な響きは室内楽の醍醐味を感じさせてくれます。ショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第2番は、1957年51歳の時の作品。第1、第3楽章はユーモアを交えたしゃれた感覚を持っていて、軽妙でリズミカルな響きは楽しさいっぱい。一転して第2楽章は映画音楽のような美しいアンダンテという構成を持った異色のピアノ協奏曲です。ボロディンの交響曲第2番は野性味溢れる民族的表現が交響曲という形で最高度に発揮された作品で、ロシア国民学派を代表する傑作です。ごゆっくりお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770～1827)：
創作主題による32の変奏曲 ハ短調WoO.80
モーラ・リンパニー(ピアノ)
(1993.10.24 サントリーホールでのLive)

ヘンリク・ヴィニァフスキ (1835～1880)：
ヴァイオリン協奏曲第２番ニ短調op.22 ～抜粋
サルヴァトーレ・アッカルド (ヴァイオリン)
ズービン・メータ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1976.6.14　ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

モーリス・ラヴェル (1875～1937)：
スペイン狂詩曲
1. 夜への前奏曲　2. マラゲーニャ　3. ハバネラ　4. 祭り
セルジュ・チェリビダッケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
(1980.10.16　ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive)

＊＊＊ 休　憩 ＊＊＊

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756～1791)：
弦楽五重奏曲第４番ト短調K.516～ 第1楽章、第2楽章、第3～第4楽章抜粋
スメタナ弦楽四重奏団/ヨゼフ・スーク(第1ヴィオラ)
(1982.11.6　昭和女子大学人見記念講堂でのLive)

ドミトリ・ショスタコーヴィチ (1906～1975)：
ピアノ協奏曲第２番ヘ長調op.102 ～ 全曲
アレクサンダー・ロマノフスキー (ピアノ)
ワレリー・ゲルギエフ指揮スウェーデン放送交響楽団
(2016.8.31　ストックホルム、ベルワルトホールでのLive)

アレクサンドル・ボロディン (1833～1887)：
交響曲第２番ロ短調 op.5 ～ 第1楽章、第3楽章から、第4楽章
キリル・コンドラシン指揮アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団
(1980.6.6　アムステルダム、コンセルトヘボウでのLive)

★ホームページアドレス　http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/